



淡路人形浄瑠璃のルーツ、里帰り

五百年にわたって、全国各地の人々に人形芝居の楽しさを届け続けた淡路人形浄瑠璃。この座本として、最も古い歴史と格式を持つ「上村源之丞座」の諸資料が、九十年ぶりに南あわじ市に里帰りしました。現在、淡路人形浄瑠璃資料館で特別展として展示しています。



▲見つかった人形の頭。淡路人形としては日本最古のものと思われる頭もあった

上村源之丞座は、淡路操座として最も古く、淡路の操業界を取り仕切ってきた座本。天皇家からのお墨付きや阿波藩主の庇護を受け、江戸時代から九州や信州など全国各地を巡業し、多くの人々を魅了しました。三原郡三条村に本拠を構えていましたが、大正の初め徳島市に移転。昭和二十年に空襲で被災するまで活動していました。空襲で当時の資料は失われたと思われていましたが、幸い古文書等の貴重な資料は焼失を免れ、座本の子孫宅（長崎県）で大



▲「中院殿御用」と書かれた提灯

淡路人形浄瑠璃資料館

常設展

市村六之丞座の人形
や道具類ほか

特別展

◆上村源之丞座展

8月19日（日）まで

◆白サギ展（野水正朔写真展） 8月9日（木）まで

◆淡路人形写真会（参加者募集）

7月19日（木）・24日（火）10:00～17:00

※用紙・絵具等用具は個人持ち。油絵・水彩画・版画等自由。8月10日～11月20日展示会

施設案内

◆場所 三原図書館2階 ◆入館料 無料

◆開館 10:00～17:00（月曜日、祝祭日の翌日は休み）

園淡路人形浄瑠璃資料館 ☎ 43-5037

切に保存されていました。このたび、現当主の了承を得て、教育委員会が借用し、淡路への里帰りが実現したものです。資料は多数の頭、古文書類、版木など貴重なものばかりで、頭には日本最古の淡路人形と思われる江戸時代初期のものが含まれていることもわかりました。特別展ではこれらの貴重な資料を公開し、上村源之丞座の活躍を紹介しています。

淡路人形浄瑠璃歴史講座

「上村源之丞座と引田家資料について」

◆7月29日（日）13:30～

◆三原公民館

◆講師 中西英夫（淡路人形協会評議員）

◆受講料 300円

◆申込み 生涯学習文化振興課

☎ 37-3020

アオリイカを殖やす取り組み



▲ウバメガシをくくりつけた産卵床を海に沈める漁師

漁獲量が減少傾向にある「アオリイカ」の維持・増大を図るため、県と南あわじ市、市内五漁協（南淡、福良、阿那賀、丸山、湊）では、「南あわじ市アオリイカ資源増大協議会」（会長、前田吉計・南淡漁協組合長）を五月十七日に設立。五月二十五日、二十六日、同協議会は、アオリイカの産卵床となる「柴漬け産卵場」を阿万海岸と灘海岸の沖合いに設置しました。アオリイカの産卵盛期は五月から七月であるといわれ、

産卵場を設置

この時期に好んで卵を産み付けるウバメガシやクスギなど生木を海中に沈めることで、産卵数を殖やすことが出来ます。1kmのロープに10m間隔で柴をくくりつけた産卵床を五組を作成。当日、数台の船に積み込み、水深五～10mの海底に沈めました。同協議会では、卵が孵化する九月には卵床を水中カメラで観察。三年計画でアオリイカが好む樹種の選定や葉の有無、大きさなどを調査していきます。

甘いひとときを楽しむ

市内の和洋菓子が一堂に集まった「南あわじ市スイーツフェスティバル」が、五月十九、二十日の二日間にわたって、淡路ファームパークイングラントの丘内の「国生みの館」で開かれました。市内には菓子大博覧会で賞を受けた菓子店が多く、三原郡役所を復元した同館で、観光客や市内の人に受賞作品などを味わってもらい、観光資

南あわじ市スイーツフェスティバル



▲色とりどりに並べられたお菓子が甘いムードに包まれた館内

ふれあい市長室

「大変」は、大きく変わるチャンス！

南あわじ市長 中田勝久

玉葱の収穫や田植えが終わわり、市内の田園風景が一変し、緑が心地よい季節になってまいりました。

さて、通常「大変」は、物事が重大で苦労が多い様をいわれ、消極的な印象が強くもたれています。しかし、発想を替えれば「大きく変わる機会を与えてくれた」と考えると、やる気も出てくると感じています。

市民の皆様は、仕事や学校、家庭生活や地域活動で苦勞をされ、歯を食いしばり頑張っていることが多いと思います。行政においても、数多くの重要課題を抱え、急激な行財政改革への舵取りなど、私にとっても苦渋の選択が多く「大変」な事案が山積みです。しかし、消極的になっでは重責を全うできません。問題が大きいほど誠意や感謝の念をもって体当たりを繰り返していますと、自分が成長進化しているように感じます。

全国に秀でた「ふるさと資源」を有する街です。各地方も大きく変わるべく、懸命に努力を重ねております。他市に負けないよう先人達が守り育ててきたすばらしい南あわじ市を、皆さんと共に発展させていきたいと思ひます。ある若者から「市が破綻しないようもっと頑張ってください。市民は理解してくれるし、色々な工夫で乗り切るよう考えてくれるはずだ」と強く言われました。

次世代の子孫に対する責務として、行財政改革においては、「選択と集中」により、補助金の削減や一部事業の縮小に取り組みさせていただきます。ご批判もございましたが、ご理解をいただける市民も多く心強く思っております。市職員も変わろうとしております。皆様方の知恵を結集し、与えられた苦しい時代を乗り越えていきたいと存じますので、特段のご尽力を賜りますようお願いいたします。